

公益社団法人 日本水産学会
平成 30 年度第 6 回理事会議事録

- 1 開催された日時 平成 30 年 12 月 1 日（土） 13 時 00 分～16 時 39 分
- 2 開催された場所 国立大学法人東京海洋大学品川キャンパス 2 号館 200A-2（東京都港区港南 4-5-7）
- 3 理事会総数及び定足数 総数 17 名，定足数 9 名
- 4 出席理事総数 17 名

（本人出席）岡崎恵美子，金子豊二，黒倉 寿，越塩俊介，佐藤秀一，田中教幸，東海 正，中田英昭，萩原篤志，日向野純也，舞田正志，安井 肇，横山芳博，家戸敬太郎，吉崎悟朗，良永知義，和田時夫

（監事出席）北田修一，杉田治男

（幹事出席）遠藤雅人，近藤秀裕，浜崎活幸，福島英登，矢澤良輔

（オブザーバー）小梶 聡（理事候補者），馬久地みゆき（理事候補者）

5 議 案

決議事項

- 第 1 号議案 「名誉会員推薦」の件
- 第 2 号議案 「会費免除承認」の件
- 第 3 号議案 「「水産政策の改革」に関する日本水産学会の意見」の件
- 第 4 号議案 「平成 30 年度日本水産学会各賞受賞者の決定」の件
- 第 5 号議案 「学会賞授賞規程及び学会賞選考委員会内規の一部改正」の件
- 第 6 号議案 「事務局設置規程及び委員会設置規程の一部改正」
- 第 7 号議案 「幹事の謝金に関する申し合わせ」の件
- 第 8 号議案 「学会誌報文著作権ポリシー」の件
- 第 9 号議案 「水産学シリーズ 179 魚食と健康 - メチル水銀の生物影響の韓国語翻訳出版契約書」の件
- 第 10 号議案 「ホームページに関する覚書」の件
- 第 11 号議案 「平成 31 年度春季大会運営について」の件
- 第 12 号議案 「Fisheries Science 85 巻における会員販売促進の継続」の件
- 第 13 号議案 「平成 31 年度日本農学賞受賞候補者の推薦」の件
- 第 14 号議案 「平成 31 年度日本農学会運営委員の選出」の件
- 第 15 号議案 「International Fisheries Science Prize の受賞候補者推薦及び選考委員推薦の取扱」の件
- 第 16 号議案 「協賛」の件
- 第 17 号議案 「入会承認」の件

報告事項 第 5 回理事会以降の職務執行の状況

その他確認事項

6 議事の経過及びその結果

(1) 定数の確認等

佐藤会長が定足数の充足を確認し，続いて本会議の議事進行について説明があった。

(2) 議案の審議状況及び議決結果等

定款の規定に基づき，佐藤会長が議長となり，本会議の成立を宣言し，議案の審議に移った。

（決議事項）

第 1 号議案「名誉会員推薦」の件

佐藤会長から，原案の説明があった。審議の結果，名誉会員推薦規程第 2 条に基づき會田勝美会員を名誉会員として社員総会に推薦することを出席理事全員一致で可決した。

第 2 号議案「会費免除承認」の件

金子総務担当理事より，会員に関する規則第 5 条第 1 項に基づき，11 名の会員を対象に会員免除することについて説明がなされ，審議の結果，当該会員の会費を平成 31 年度から免除することを出席理事全員一致で可決した。

第 3 号議案「「水産政策の改革」に関する日本水産学会の意見」の件

黒倉水産政策担当理事より，水産政策委員会が作成した「水産政策の改革」に関する日本水産学会の意見について説明があった。水産学会というアカデミアから政策に提言をするのは難しいが，政策自体

は認めて細かい点についてコメントするという形で提言を出すことが示された。理事からは幾つかの修正意見が出され、議論により、会長名での意見表明することとなった。審議の結果、原案を一部修正の上、出席理事全員一致で可決した。

第4号議案「平成30年度日本水産学会各賞受賞者の決定」の件

萩原学会賞担当理事より、平成30年9月15日に開催された学会賞選考委員会において推薦を決定した平成30年度日本水産学会各賞の受賞者候補者について原案の説明があった。審議の結果、出席理事全員一致で以下の通り可決した。

日本水産学会賞

- 帰山 雅秀 「サケ属魚類の持続可能な資源管理にむけた生態学的研究」
- 酒井 正博 「魚類とエビ類の自然免疫を利用した疾病防除法に関する研究」
- 左子 芳彦 「ゲノム情報を用いた海洋微生物の生理・生態学的研究」

日本水産学会功績賞

- 山口 峰生 「赤潮・貝毒の発生機構と予察および被害防止に関する研究」

水産学進歩賞

- 北野 健 「魚類における環境依存的な性決定に関する研究」
- 宮下 和士 「水産資源と生態系の音響モニタリング手法の開発と応用」

水産学奨励賞

- 遠藤 光 「海藻類の環境応答に関する生理生態学的研究」
- 壁谷 尚樹 「水産生物の脂肪酸代謝酵素の機能解析とその利用」
- 高橋 希元 「タンパク質分解制御による低利用水産物の高付加価値化に関する研究」
- 高橋 宏司 「海産魚類の学習能力に関する生態学的研究」

水産学技術賞

- 渥美 貴史 「花珠生産技術の開発と環境に配慮した真珠養殖の実現化」
- 植木 暢彦
- 松岡 洋子 } 「伝統的職人技の科学的解明による水産練り製品の品質向上」
- 万 建栄

第5号議案「学会賞授賞規程及び学会賞選考委員会内規の一部改正」の件（別紙1）

金子総務担当理事より、学会賞授賞規程の改正案の説明があった。本議案について、以下の質疑応答があった。

良永理事「学会賞取り消しのプロセスについては別に定めておく必要があるのではないか？」

佐藤会長「今後、審議する。」

引き続き、金子総務担当理事から学会賞選考委員会内規の改正案の説明があった。本議案について、以下の質疑応答があった。

和田理事「著者A、著者Bの連名と著者B、著者Cの連名ではどうか？」

金子理事「連名理由書を提出してもらって議論する。」

東海理事「過去に認めたことがあるので問題ないと考える。」

良永理事「連名論文がない受賞者について独立研究を一つの業績として推薦することについてはどうか？」

金子理事「連名理由書を提出してもらって議論する。まず、学会賞選考委員会で議論する。その後、理事会での審議が入るのでその中で考える。問題は起こらないだろう。」

審議の結果、出席理事全員一致で別紙のとおり可決した。

第6号議案「事務局設置規程及び委員会設置規程の一部改正」（別紙2）

金子総務担当理事より、事務局設置規程及び委員会設置規程の一部改正について原案の説明があった。

審議の結果、出席理事全員一致で別紙のとおり可決した。

第7号議案「幹事の謝金に関する申し合わせ」の件（別紙3）

第6号議案成立に基づき、金子総務担当理事より、幹事の謝金の申し合わせについて原案の説明があった。審議の結果、出席理事全員一致で別紙のとおり可決した。

第8号議案「学会誌報文著作権ポリシー」の件（別紙4）

東海編集担当理事より、学会誌報文著作権ポリシーについて原案の説明があった。現時点では報文のみの取りまとめであるが、今後はその他の出版物についても関連委員会や出版社と連携・議論し、集約

を図る予定であるとの説明があった。本議案に対して、以下の質疑応答があった。

佐藤会長「どこに掲載するか？」

東海理事「規程の掲載箇所は総務担当理事と相談する。」

審議の結果、出席理事全員一致で別紙のとおり可決した。

第9号議案「水産学シリーズ 179 魚食と健康 - メチル水銀の生物影響の韓国語翻訳出版契約書」の件

越塩出版担当理事より出版委員会から提出された契約書について原案の説明があった。本議案に対して、以下の質疑応答があった。

萩原理事「編者が著作者名となっているが、これで良いか？」

越塩理事「水産学シリーズでは編者となっているが原本は著作者名となっている。出版委員会で確認する。」

審議の結果、出席理事全員一致で原案のとおり可決した。

第10号議案「ホームページに関する覚書」の件

吉崎企画広報担当理事より、ホームページに関する覚書の原案について説明があった。審議の結果、出席理事全員一致で原案のとおり可決した。

第11号議案「平成31年度春季大会の運営について」の件

舞田関東支部担当理事より、大会運営規則第8条2項に基づき、平成31年度春季大会の運営について原案の説明があった。具体的な内容は1) 英語セッションの設置について継続的に実施していくためには、新たに部門を設けて大会実行委員会の主導のもとに運営していくことが必要であり、これについて国際交流委員会から了承を得た。このことから、従来の部門に加え、「8. 持続可能な開発目標 (Sustainable Development Goals; SDGs) と水産学研究」を設けたい。2) 平成31年度春季大会では、日本水産学会創立85周年記念国際シンポジウムで利用したシステムを基にして英語の登録システムを導入したい。3) 全体の口頭発表については発表時間を15分(発表12分、質疑応答3分)にしたい。4) 要旨は冊子体としたいとの提案がなされた。本議案について以下の質疑応答があった。

金子理事「前回の大会では要旨の冊子体配布はしなかったが、今回行う理由は？」

舞田理事「議論はあったが、いつの時点で公開するかの判断が難しいことと書き込みができる冊子体の方が良いとの意見が出されていたことから冊子体配布としたい。」

岡崎理事「前回の秋季大会でのメリット・デメリットが明確になっていない。」

日向野理事「総括はできていない。講演要旨のペーパーレス化については概ね理解が得られたが、一部では冊子体が良いという意見もあった。ダウンロード開始の時期については苦慮していた。今後の方針については理事会で審議してほしい。」

横山理事「今回はということだが、次の秋季大会をどのようにするかについて費用についても大きく変わるのでどのようにしたらいいのか？」

舞田理事「理事等からの要望はあるが実行委員会で原案の決定を行うべき。」

日向野理事「前回の秋季大会では参加費を500円程度減らせるとの試算ができたので試行的にやってみた。」

岡崎理事「経費削減効果や利便性も含めてよく議論して決定する必要がある。」

審議の結果、平成31年度春季大会の運営方法について出席理事全員一致で原案のとおり可決した。

引き続き舞田理事から平成31年度春季大会における英語セッションの運営方法について原案の説明があった。具体的には1) 12月2日のホームページ開設に合わせて案内を掲載したい、2) 第6条2項の規定の中に発表は会員に限るとあるが、非会員に対しても英語セッションでの発表を可能とすること。本議案について以下の質疑応答があった。

佐藤会長「大会規程は変える必要があるか？」

舞田理事「今回は試行的に行うということで大会規程は変える予定はない。」

横山理事「規程とは外れると思うが、この点はどうか？」

舞田理事「理事会の決議として認めてほしい。」

佐藤会長「シンポジウムであれば問題ないと考えられる。」

金子理事「日本人の非会員は発表可能か？」

舞田理事「可能である。」

吉崎理事「連携している海外学会との連携では対応できないか？」

佐藤会長「それ以外の方もいるので難しい。」

和田理事「SDGs に絡む水産に関する話題を扱っている学者が必ずしも水産学会の会員でない場合もあるので今回の取り組みは推奨したい。」

金子理事「試行ということで了承可能できると思う。」

議論の結果、平成 31 年度春季大会における英語セッションの運営方法についても、出席理事全員一致で原案のとおり可決した。

さらに舞田理事より、平成 31 年度春季大会の会期について説明があった。シンポジウムや発表件数次第で平成 31 年度春季大会の会期を変更する可能性がある。審議の結果、平成 31 年度春季大会の会期変更について大会実行委員会に一任することを出席理事全員一致で可決した。

第 12 号議案「Fisheries Science 85 巻における会員販売促進の継続」の件

金子総務担当理事より、原案について説明があった。出席理事全員一致で原案のとおり可決した。

第 13 号議案「平成 31 年度日本農学賞受賞候補者の推薦」の件

萩原学会賞選考担当理事より、平成 31 年度日本農学賞受賞候補者の推薦について原案の説明があった。審議の結果、出席理事全員一致で原案のとおり可決した。

第 14 号議案「平成 31 年度日本農学会運営委員の選出」の件

金子総務担当理事より、平成 31 年度日本農学会運営委員について説明があった。審議の結果、出席理事全員一致で次のとおり可決した。

[選出] 渡邊壮一(東大院農)

第 15 号議案「International Fisheries Science Prize の受賞候補者推薦及び選考委員推薦の取扱」の件

萩原学会賞選考担当理事より、世界水産学協議会から受賞候補者及び選考委員の推薦依頼について説明があった。佐藤会長からはこれまで 2 回の推薦を行っており、会長と国際交流委員会から推薦していたとの補足説明があった。本議案について以下の質疑応答があった。

佐藤会長「学会賞選考委員会からの選考は可能か？」

萩原理事「会員から推薦があった場合に選考は可能である。」

東海理事「内規を見ると推薦者が必要となる。学会賞選考委員会では候補者の選定を行うことはできるが推薦はできない。」

和田理事「会員に周知しなくて良いか？」

東海理事「会員から推薦というところであるが、性質上、国際交流委員会で選出することも一案である。何れにしても理事会で確認をする必要がある。」

金子理事「必ずしも会員全体から募集する必要もないのではないか？戦略的に行う必要がある。」

和田理事「国際的に名の通った方を推薦すべき。」

佐藤会長「理事会として国際交流委員会を中心に候補者を選出してもらおう。」

萩原理事「国際交流委員会だけの推薦は厳しいかもしれないので、理事からの推薦を審議するようにしたい。」

審議の結果、国際交流委員会と理事会が連携して International Fisheries Science Prize の受賞候補者の推薦を行うことを出席理事全員一致で可決した。

引き続き佐藤会長から選考委員の推薦について説明があった。審議の結果、International Fisheries Science Prize の選考委員の推薦は佐藤会長に一任することを出席理事全員一致で可決した。

第 16 号議案「協賛」の件

金子総務担当理事より下記の協賛の申し出について説明があった。審議の結果、出席理事全員一致で協賛を可決した。

Marine Biotechnology Conference 2019

主 催 マリンバイオテクノロジー学会

協 賛 日本水環境学会 他約 20 学協会

日 程 2019 年 9 月 9 日～13 日

場 所 静岡市清水文化会館(マリナート)、清水テレサ(静岡県静岡市)

希 望 協賛

負担金 なし

第 17 号議案「入会承認」の件

審議の結果、出席理事全員一致で原案のとおり可決した。

(報告事項)

第5回理事会以降の職務執行の状況

・会長

佐藤会長より、次の報告があった。

- 1) 水産学若手の会委員会が平成30年度秋季大会中の9月15日にミニシンポジウム「若手研究者による中国・四国地方における水産研究のこれから」を開催した。また、10月31日に専修大学生田校舎で第2回の委員会を行った。
- 2) 第2回水産・海洋科学研究連絡協議会が東京海洋大学品川キャンパスで行われ、各学会情報交換、公開シンポジウム「2050年の水産資源を日本の食卓から考える」の説明、水産工学にかかわる国際会議の後援依頼の説明および古谷副議長からマスタープランについて説明があった。

・庶務関係

金子担当理事より、次の報告があった。

- 1) 平成30・31年度支部幹事について以下のとおり交代があった。
中国・四国支部 [辞退] 小路 淳, 日向野純也 [選出] 富山 毅, 深見雄雄
- 2) 学会職員の期末手当の説明があった。
- 3) 内閣府公益認定等委員会による立ち入り検査が11月9日10時から16時にかけて行われた。幾つか指摘事項があったが、全て対応できる内容であった。
- 4) 下記の後援依頼について共催、協賛、後援の取り扱いの申し合わせ3)を適用した。

第56回アイソトープ・放射線研究発表会

主 催 日本アイソトープ協会

協 賛 応用物理学会 他61学協会(予定)

日 時 2019年7月3日~5日

場 所 東京大学弥生講堂(東京都文京区)

希 望 後援

負担金 なし

・企画広報関係

吉崎担当理事より、9月16日開催の第5回委員会にて日本水産学会誌第84巻5,6号および第85巻1号の掲載記事について検討・確認を行ったとの報告があった。また、11月13日開催の第6回委員会にて日本水産学会誌第84巻6号および第85巻1,2号の掲載記事について検討・確認を行うとともに、ホームページ作成の覚書について原案の作成を行ったとの報告があった。

・財務関係

萩原担当理事より、平成31年1月から日本水産学会誌の特別注文の送料を変更したとの報告があった。

・編集関係

東海担当理事より、11月に「日本水産学情報発信オープンアクセス強化」と題して科研費「国際情報発信強化」の申請を行ったとの報告があった。また、今回の編集委員会は平成31年1月29日もしくは30日に開催する予定であるとの報告があった。

・学会賞関係

萩原担当理事より、第17回日本農学進歩賞について本会から推薦した下記の会員が受賞し、平成30年11月30日に受賞講演が行われたとの報告があった。

黒木真理(東大院農)「ウナギの初期生活史と回遊の進化に関する研究」

・シンポジウム関係

横山担当理事より、平成30年度秋季大会中に開催されたシンポジウム企画委員会でシンポジウム企画案ひな型の最終確認を行い、現在、HPにアップロードされているとの報告があった。また、大会期間中のシンポジウム開催について企画案の応募要請があった。

・出版関係

越塩担当理事 特になし

・水産技術誌監修関係

日向野担当理事 特になし

・国際交流関係

和田担当理事及び国際交流委員会委員長である萩原理事より、11月初旬に開催された韓国水産科学会

に佐藤会長が出席し、韓国水産科学会と日本水産学会との学術交流協定覚書について調印が行われたとの報告があった。

- ・水産教育関係
良永担当理事 特になし
- ・水産政策関係
黒倉担当理事より、「水産政策の改革」に関する日本水産学会の意見の取りまとめについて中田委員長を中心に多くの方が議論に参加して進めたとの報告があった。また、これに関連して水産政策に関するシンポジウムについて検討を進めているとの報告があった。
- ・漁業・資源管理関係
東海担当理事より、漁業懇話会委員会で平成 30 年度秋季大会の発表の中から若手研究者と学生を対象に奨励賞 3 名の受賞者を決定したとの報告があった。
- ・水産利用関係
岡崎担当理事より、平成 31 年 1 月 9 日に日本大学藤沢キャンパスにて第 3 回水産利用懇話会委員会を開催し、同日 15 時から 17 時まで平成 30 年度第 2 回水産利用懇話会講演会「築地市場移転の現状」を開催するとの報告があった。
- ・水産増殖関係
家戸担当理事より、平成 30 年度秋季大会で平成 30 年度第 2 回水産増殖懇話会講演会を開催し、平成 31 年度春季大会で平成 31 年度第 1 回講演会を開催するとの報告があった。
- ・水圏環境関係
萩原担当理事より、平成 31 年度春季大会中の 3 月 26 日に「東日本大震災復興事業による沿岸域の改変が沿岸生態系に何をもちたらすか」という題目で水産環境保全委員会シンポジウムを開催するとの報告があった。
- ・男女共同参画関係
岡崎担当理事より、平成 30 年度秋季大会中の 9 月 17 日に男女共同参画推進委員会を開催し、男女共同参画学協会連絡会の第 4 回大規模アンケートの解析について議論したとの報告があった。また、10 月 13 日に建築会館で開催された第 16 回男女共同参画学協会連絡会シンポジウムに本学会から 3 名が参加したとの報告があった。平成 31 年度春季大会中の 3 月 29 日の昼にランチョンセミナーを開催するとの報告があった。
- ・社会連携関係
安井担当理事より、社会連携のフォーマット原案を作成しており、社会連携の様相は地域で異なるので支部と連携して進めたいとの報告があった。「社会に愛される水産科学」というイメージで本学会や水産学が良いものであるとホームページの Good practice に上がってくるようにしたいとの報告があった。
- ・将来計画関係
和田担当理事 特になし
- ・北海道支部，地域連携関係
安井担当理事より、平成 30 年 11 月 23 日、24 日に釧路市立生涯学習センターで行われた支部大会および公開シンポジウム「環境変動を考慮した北海道の水産増殖展望」について報告があった。
- ・東北支部，地域連携関係
田中担当理事より、10 月 6 日、7 日に山形大学農学部で行われた支部会およびミニシンポジウム「東北地方におけるサケマス資源変動と資源安定に向けた試み」について報告があった。また、平成 31 年 2 月 8 日 東北大学で支部会と支部総会を開催する予定であるとの報告があった。
- ・関東支部，地域連携関係
舞田担当理事より、平成 31 年度春季大会へ向けて準備活動が本格化してきたとの報告があった。
- ・中部支部，地域連携関係
横山担当理事より、平成 30 年 12 月 15 日に新潟コープシティ花園で中部支部大会を開催する予定であり、ポスター発表、ミニシンポジウム「地方から考える「漁業の成長産業化」」、幹事会、総会等を行う予定であるとの報告があった。また、福井県立大学で行われる平成 31 年度秋季大会に向けて予算取りなどを進めているとの報告があった。
- ・近畿支部，地域連携関係
家戸担当理事より、平成 30 年 12 月 8 日に琵琶湖博物館大ホールで近畿支部後期例会を行う予定であ

り、その中で幹事会、特別講演「先達の知恵と経験を若手・中堅水産研究者と技術者へ-淀川・琵琶湖水系の魚類資源を考える-」、研究発表および高校生によるポスター発表を行うとの報告があった。

・中国・四国支部、地域連携関係

日向野担当理事より、平成30年度秋季大会期間中の9月15日に支部幹事会が行われ、今年度は支部大会を行わず、平成30年12月21日に広島市市民交流プラザで開催予定の第19回広島湾研究集会「かきを育む海、かきが育む海」を水産海洋学会等と共催するとの報告があった。また、平成31年度は支部会およびシンポジウムを広島湾研究集会や瀬戸内海水産フォーラムとの共催を行うことを検討しているとの報告があった。平成30年度秋季大会の会計は中途段階のものは報告されているが、東広島市から助成金が受けられるようになったことを受けて確定すると考えられるとの報告があった。

・九州支部、地域連携関係

越塩担当理事より、平成30年12月8日に支部大会および総会を、9日にシンポジウム「南九州の河川環境を巡る内水面漁業の課題」を鹿児島大学水産学部で開催するとの報告があった。

・英文書籍監修委員会（特別委員会）

吉崎担当理事 特になし

・東日本大震災災害復興支援検討委員会（特別委員会）

黒倉担当理事より、状況は変わらないが、重点は福島の水産再開であり、情報があれば委員会までご連絡いただきたいとの報告があった。

・日本水産学会創立85周年記念事業委員会（特別委員会）

和田担当理事より、日本水産学会85年史を無事刊行し、会計を確認した後、次回理事会に解散を議題に挙げるとの報告があった。

・財務検討委員会（特別委員会）

萩原担当理事より、ゆうちょ銀行の法人向けのサービス、特に振込サービスの変更（値上げ）について予算増大の対応について審議を始めるとの報告があった。また、東海担当理事より、来年度予算の編成について消費税増税を考慮した試算を行い、理事会にその結果報告を行いながら進めたいとの説明があった。

その他確認事項

(1) 事業計画・予算書及び事業報告・決算報告の提出日程について

金子総務担当理事から事業計画・予算書及び事業報告・決算報告の作成について日程を含めて説明があり、締め切りを厳守するよう要請があった。

(2) 次回の理事会について

佐藤会長から次回理事会は平成31年2月9日に13時より東京海洋大学品川キャンパスで開催するとの説明があった。

(3) 世界水産学会議の開催について

佐藤会長から2020年10月11日から15日まで開催される世界水産学会議について説明がなされ、出席および周知について要請があった。

以上をもって議案の審議等を終了したので、16時39分、議長は閉会を宣言し、解散した。

以上、この議事録が正確であることを証するため、出席した議長（代表理事）及び監事は記名押印する。

平成30年12月1日

公益社団法人 日本水産学会

議長 会長（代表理事）

監 事

監 事